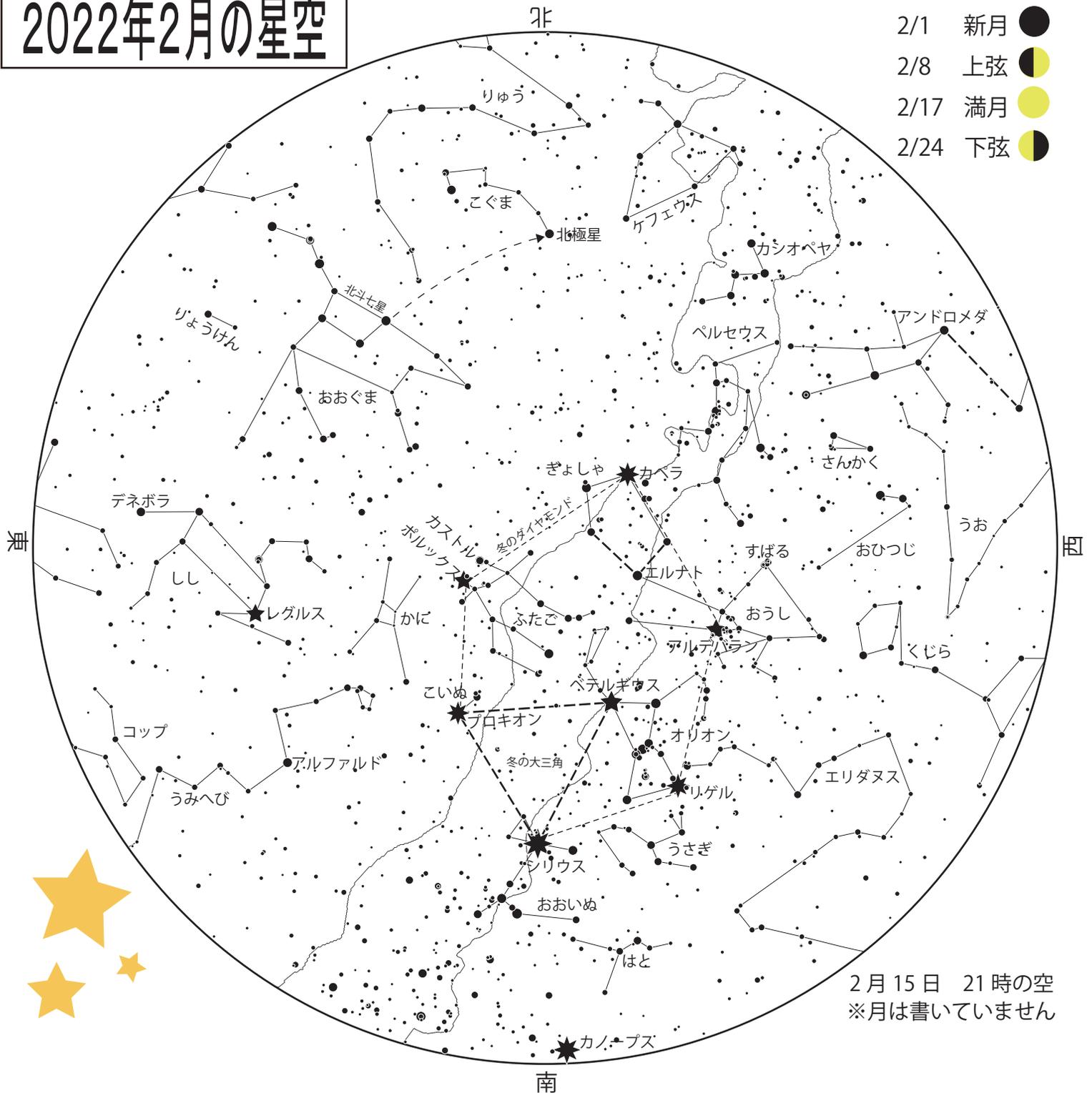


# 姫路で見る 2022年2月の星空

図の中心が頭の真上(天頂)、まわりの円が地平線です。  
この星図は見ている方向の方位を下にしてください。

- 2/1 新月 ●
- 2/8 上弦 ◐
- 2/17 満月 ●
- 2/24 下弦 ◑



2月15日 21時の空  
※月は書いていません

2月4日に立春を迎えて暦の上では春になりましたが、空にはまだ冬の星座がよく見えます。まず目につくのが、南の空でひととき明るく輝いている、おおいぬ座のシリウスです。シリウスは全天でいちばん明るい恒星です。このシリウスと、こいぬ座のプロキオン、オリオン座のベテルギウスを線で結ぶと、冬の夜空の目印「冬の大きな三角」ができます。また、ベテルギウスを取り囲むように、シリウス、プロキオン、ふたご座のポルクス、ぎょしゃ座のカペラ、おうし座のアルデバラン、オリオン座のリゲルとたどり、シリウスに戻ると、六角形の「冬のダイヤモンド」を描くこともできます。

空気が澄んだ夜には、南の地平線(海辺なら水平線)の上にカノープスが見えるかもしれません。カノープスは、シリウスに次いで全天で2番目に明るい恒星ですが、姫路から見ると大気で大幅に減光されるため、赤みがかった暗い星に見えます。中国では「南極老人星」といい、見ると寿命がのびるとされています。

冬の星が目立ちますが、東の空にはもう春の星座、しし座やおおぐま座が見えます。おおぐま座の北斗七星からは北極星をさがせます。